

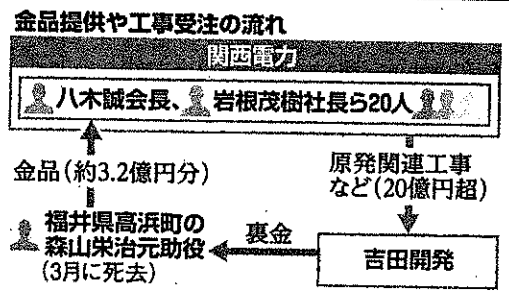
# 元助役に裏金提供した業者

# 関電から20億円超受注

関西電力の社長らが、高浜原発が立地する福井県高浜町元助役の森山栄治氏（3月に死去）から計約3億2千万円分の金品を受け取っていた問題で、森山氏に資金提供した土木建築会社が関電側から少なくとも過去3年間に計約20億円超の工事を受注していたことが分かった。東京電力福島第一原発事故後、関電が巨費を投じる安全対策工事で売り上げを伸ばしていた。

## 安全対策「特需」で急成長

土木建築会社は「吉田開発」（高浜町）。金沢国税局の調査では、森山氏が吉田開発から約3億円を受け取り、このうち約1億8千万円分については関電の岩根茂樹社長や八木誠会長ら6人に金品として渡っていたことがわかった。吉田開発が下請け企業との取引を通じてつくった裏金が原資



子力事業本部・前本部長）、森中郁雄副社長（同事業本部長）、大塚茂樹常務執行役員（同事業本部・前副事業本部長）、鈴木聡常務執行役員（同事業本部長）ら。民間信用調査会社によると、吉田開発は1981年に設立。直近の3事業年度の工事経歴書をみると、

くられた新規制基準に対応するため、関電はこれまで高浜原発だけで5千億円超の安全対策費を投じ、工事に関与できる地元企業は「特需」で売り上げを伸ばした。吉田開発もその一つで、18年8月期の売上高は約3億5千万円だったが右肩上がりに増えた。18年8月期には21億円を超え、6年で約6倍になっている。同社が受注した中には、重大事故が起きた際の司令塔の役割を果たす「緊急時対策所」（高浜原発）の敷地造成や、テロを想定した「特定重大事故等対処施設」（大飯原発）の関連工事などもあった。ほかにも原子炉を冷やす海水の取水設備関連工事や、原発で働く関電社員の寮の改修まで幅広く受注していた。自らも森山氏から金品を受け取っていた関電の岩根社長は、27日の記者会見で「社長も担当者もおおらず、対応できない」としている。

吉田開発は27日の取材に「社長も担当者もおおらず、対応できない」としている。関電や子会社から社員寮の整備などを直接受注していたほか、大手ゼネコンの下請けとして少なくとも計約20億円あまりの原発関連工事を請け負っていた。福島第一原発事故後につ